



お問い合わせ

立教セカンドステージ大学(RSSC)事務室

E-mail: rssc@ml.rikkyo.ac.jp TEL: 03-3985-4672

Sep 2020

9月開講にあたって 新しいメディアと共に歩む RSSC 教員 立教大学名誉教授 平賀 正子



コロナ禍によりセカンドステージ大学は9月開講となりました。4月から辛抱強くお待ちくださった皆さん、入学おめでとうございます。これから半年という限られた時間の中ですが、新しいカリキュラム、新しいメディアによる学びと仲間作りを通じて、充実した「特別な秋学期」をエンジョイして頂きたいと思います。経済活動をはじめとして様々な分野で新しいメディアによる働き方やコミュニケーションが模索され実行されています。教育分野でも「オンライン」という形態が現在支配的になっていることはご承知の通りです。

思えば、私たちセカンドステージ世代は「新しいメディア」と共に歩んできたといえます。原稿用紙に鉛筆、レポート用紙にシャープペンシルやボールペン、タイプライターからパソコン、プリンターへ。手紙も紙から電子媒体へ。電話も固定から携帯へ、音声のみからテレビ電話へ。こうして私たちは、書き言葉でも話し言葉でも、メディアの形態によって伝わる内容やニュアンスが変わるということを感じてきました。「オンライン」という新しいメディアによる大学生活をこのような観点からも味わってみてはいかがでしょうか。皆さんのご健闘をお祈りいたします。

RSSCの一年 委員会活動のこれまでとこれから

RSSCでは、受講生と共に創造していくという考えの下、「受講生委員・委員会制度」を設け、学内での活動や各行事の企画・運営に受講生が主体的に参加しています。

これまで RSSC には 10 の委員会があり、委員は春学期ゼミナール開始時期に、各ゼミ毎に選出しています。

例えば、「**ニューズレター委員会**」(春号・秋号、それぞれ本科生が担当)では、年 2 回発行する RSSC の広報媒体であるニューズレターの企画から発行までを担います。原稿執筆依頼のやりとりの中で、他のゼミ生や専攻科生、時には修了生との交流を持つこともあります。また、委員会で編集作業を経験し、自主的に冊子を発行するなど、修了後の活動に活かしている方もいるようです。「**修了論文発表会委員会**」(専攻科生が担当)では、3月に開催される「修了論文発表会」の企画から当日の進行まで行います。1年間の学びの集大成の場となるため、滞りなく発表が行えるよう、入念に何度も打合せを重

ねます。このように委員会活動を行う中で、同じ目的を持った仲間同士の絆が深まっています。また、修了後の活動のきっかけを発見できる貴重な経験の場ともなっています。

これからの委員会活動では、「with/after コロナ」を想定し、RSSC で今後取り入れていくオンラインを活用した学びやコミュニティづくりの活性化を図るため、新しい委員会をスタートさせる予定です。また既存の委員会においても、オンライン会議システムなど IT 技術を適宜取り入れた活動を進めていきます。



委員会での打合せ(左)
修了論文発表会(右)



※各種活動は、感染予防策を講じた安全な形での実施を検討しています。次回は、「清里合宿」を予定しています。

RSSC 事務室から、キャンパス便り

大正時代初頭、学生スポーツ、とりわけ野球が盛んになり、立教大学も

大正 10 年の秋季リーグ戦から大学野球連盟に加盟しました。昭和 6 年リーグ戦初優勝、平成 29 年には春季リーグで 13 回目の優勝旗を手に入れました。池袋キャンパス セントポールズ会館の飾り棚には、卒業後にプロの世界で活躍された長嶋茂雄さん達のサインボールや色紙がおさめられています。

セントポールズ会館に飾られたサインボールと色紙



旧江戸川乱歩邸と立教大学

作家・江戸川乱歩は、東京で 25 回の転居を繰り返した後、1934 年に立教大学に隣接する住居に移り住み、70 歳で死去するまで 31 年間暮らしました。2 階建ての土蔵は書庫として利用され、1 階には和書や洋書が、2 階には江戸文学などの和本を配架していました。2002 年、この土蔵・住宅と計 4 万点近くの蔵書等が立教大学に譲渡され、2006 年に江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが設立されました。センターでは現在研究・保存・公開を進めています。2 階建ての土蔵や、乱歩の好みが反映された応接間など見どころが満載の旧邸は、一般公開もされています。※オンラインによる事前予約要



当時は、まだ自然豊かな場所にあり、それが乱歩をこの場所に惹きつけた理由の一つかもしれない。

真夏の神宮 – コロナ禍の大学スポーツ –

RSSC 教員

立教大学文学部教授 前田 一男



セカンドステージ大学では「歴史の中の学校教育」を担当していますが、今年度はコロナ禍の影響で休講になってしまいました。東日本大震災から約 10 年、今度は新型の感染症が学校教育を襲っています。高等教育も含めて、学校の役割、教育の意味、学びの意義が、根本から問い直されようとしています。今、われわれは歴史的な分岐点に立ちながら、現実社会のなかで「歴史の中の学校教育」を学んでいるのかもしれない。

近年、立教大学では、体育会活動を課外活動としてではなく、正課外教育として捉えなおし、正課教育とセットにして大学を豊かな人間形成の場として考えようとしています。ところが、突然襲ってきたコロナ禍によって、正課外教育は著しい苦境に立たされることになりました。前田が部長を務める野球部も、例外ではありません。

3 月 3 日朝 8 時から全体ミーティングを開きました。大学の方針で宮崎キャンプを急遽中止にしたこと、今日以降練習の自粛が始まることを部員に伝えました。このころは東京都の感染者数が一桁だったこともあり、部長が部員に説明した「パンデミック」という言葉も説得力を持たなかったかもしれません。しかしそれ以降、感染拡大に対応して大学の方針が次々と出されていきました。野球部もその方針を遵守し、約 3 ヶ月半練習自粛の期間が続きました。

寮生活は感染拡大の温床になりうることから、部員には実家に帰ることを薦め、活動休止期間を対象に部費や食費の減免措置も執り行いました。指導者も部員も、緊張と不安にさらされながらの日々が続きました。溝口智成監督は、個々の部員がどのように自主練習をしているのか、SNS を通じてたえず連絡を取りあい、「悲観は気分、楽観は意志」との言葉を部員からもらって監督自身が勇気づけられ、野球部独自で「新型コロナウイルス感染防止のための『新生活ルール』」を作成して、予防対策の徹底を図りながら選手たちに寄り添ってくれました。6 月 23 日、いろいろな制限がありながらも、寮の目の前にあるグラウンドで、やっと練習が再開できるようになりました。

これは、春季リーグ戦の開幕を諦めなかった姿勢そのものでした。六大学各校の協働と努力、広汎な情報収集による連盟の判断、万全を期した観戦体制、そして応援してくれるファンの理解があって、2 度延期を経て 8 月中旬の「真夏の神宮」が実現しました。東京六大学野球史上、初めての経験でした。国内 26 大学リーグで春季リーグ戦が開催できたのは、東京六大学野球連盟だけでした。

立教の成績は、3 勝 2 敗、同率 3 位の成績でした。他校に比べて活動自粛が厳しかったなかで、よく戦い抜いてくれました。特に、初ヒットを打ち、初登板を飾った 4 年生など、最上級生の活躍が嬉しいことでした。彼らの野球人生に、忘れられない「真夏の神宮」が刻まれたことでしょう。

感染症対策と学生の体育会活動とをどのように両立させていくか、引き続き慎重な検討が求められますが、今回の春季リーグ戦の開催は、これからの大学スポーツ界のひとつの検証モデルになるのではないかと思います。人は舞台上に立って成長します。神宮の舞台は世界観を変えると OB がいました。感染症対策を徹底しながらも、その舞台を用意する大学教育の使命を感じています。

<教員専門分野>

教育学

2020 年度スローガン

煌 奮 迅

立教大学野球部の今年度のスローガンは、「煌」「奮迅」という 2 つの言葉を合わせた「煌奮迅(こうふんじん)」。光り輝く「優勝」に向かって、部員全員が一丸となり（煌）、どんな状況でも気持ちを奮い立たせ、「優勝」に向かって一直線に突き進んでまいります（奮迅）。

立教大学野球部 HP より引用